

<<TOPIC>>

「トランスナショナル教育～その１～」として、今回はトランスナショナル教育の全体像と University of Arizona の成功事例に関する記事を紹介しました。

後半となる「トランスナショナル教育～その２～」では、2013年にアメリカ・Yale大学とシンガポール国立大学（NUS）の有名２大学により共同設立された Yale-NUS College について取り上げます。2015年度卒業生を持って閉鎖すると発表があったのは、ちょうど１年前。今年 NUS に立ち上がった新体制の大学の入学生データを紹介し評論している記事を紹介し、トランスナショナル教育の難しさについてもお伝えしたいと思います。

コンテンツ

◆紹介記事◆	1
1) Yale-NUS College の概要と閉鎖の理由とは？	1
・記事 1) deepL 日本語翻訳	1
・記事 1) オリジナル本文（英語）	6
2) シンガポール国立大学の新しい「NUS College」が間もなく始動。初年度の入学者とは？	8
・記事 2) deepL 日本語翻訳	8
・記事 2) オリジナル本文（英語）	10
◆もっと知りたい場合◆	12

◆紹介記事◆

1) Yale-NUS College の概要と閉鎖の理由とは？

今からちょうど１年前、Yale-NUS College が閉鎖するという電撃の発表がありました。Yale-NUS College と言えば、アメリカの名門大学 Yale 大学がシンガポール国立大学と提携し、アジアで本格的なリベラルアーツ教育を提供することで評判があり、日本からも多くの留学生が入学しています。Yale-NUS はどんな理念で開校し、突如閉鎖を発表することになったのかをこちらの記事で見ていきましょう。

https://globalist.yale.edu/2021-2022-issues/the-yale-nus-closures-unanswered-questions/?utm_source=rss&utm_medium=rss&utm_campaign=the-yale-nus-closures-unanswered-questions

・記事 1) deepL 日本語翻訳

タイトル：TITLE：Yale-NUS 閉鎖の未解決問題

8 月 25 日木曜日の午後、Yale-NUS College のすべての学生は、翌日に行われるサプライズタウンホールについて伝えるメールを受け取った。金曜日の授業は休講になった。Yale-NUS はすでにコア・カリキュラムの変更を発表すると学生に伝えていたので、Yale-NUS の 1 年生である Suman P. はそのメールを受け取ったとき、「あまり深く考えなかった」と言った。同時に、シンガポール国立大学（NUS）は、NUS 内の University Scholars Programme (USP) に在籍する学生を対象に、独自のタウンホールを行うと発表した。

この 2 つのタウンホールは、偶然にも同じ時期に開催されたのだろうか。この合同説明会では、USP と Yale-NUS を巻き込んだ何か「面白い」新プログラムが発表されるのではないかと、という噂が流れ始めた。しかし、それが何であるかは誰も知らない。Yale-NUS College は Yale 大学にとって唯一の主要な海外提携校であり、Yale 大学は自らの基金から Yale-NUS College に基金を拠出したことはない。そのため、Yale 大学の学生たちは、Yale 大学が撤退し、シンガポールの分校が独立するのではないかと、と何年も前から思っていた。今回の突然のタウンホールで、その噂が少しばかり大きくなった。

その金曜日の朝、タウンホールが始まるわずか 10 分前に、Yale-NUS の学生の何割かが携帯電話、ラップトップ、タブレットを開き、報道を目にしました。この報道を信じるなら、あと 4 年で 2025 年度卒業予定の代が Yale-NUS College の卒業証書を受け取る地球上で最後のグループとなる、というのだ。

この報道からタウンホールが始まるまでの 10 分間は、Suman にとって「人生で最も混乱した 10 分間」であった。彼女は Yale-NUS の閉鎖を信じたくなかったが、Yale Daily News やシンガポールの主要紙 Straits Times、そして Yale 大学のプレスリリースまで、さまざまな情

報源が一斉にそのメッセージを繰り返したのである。タウンホールでは、NUS が本当に Yale-NUS College を閉鎖することが決定され、アジアにリベラルアーツ教育を導入するという同大学の 10 年にわたるプロジェクトが終了したことが確認されたのである。その理由を知るには、Yale 大学と the National University of Singapore (シンガポール国立大学) が共同で Yale-NUS College を設立する計画を発表した 2011 年に立ち戻る必要があります。

その発表の中で、Yale 大学は Yale-NUS College を「シンガポール初のリベラルアーツカレッジ、そして生活と学習を統合した完全なレジデンシャルカレッジモデルを持つ初の大学」と表現しています。当初から、Yale-NUS は、完全に独立した大学でありながら、親大学である 2 つの大学の従属的な子弟であるという狭間で、その地位を占めていました。2011 年、Yale 大学のプレスリリースによると、Yale-NUS College は独立した大学として、「西洋とアジアの視点を統合した」独自のコアカリキュラムをデザインしました。同時に、Yale-NUS は理事会の統制を欠き、理事会のメンバーの半分以上を Yale 大学が、もう半分以上をシンガポール国立大学が推薦し、シンガポール教育省がすべての推薦者を承認することになっています。2011 年のプレスリリースにあるように、Yale-NUS は「リベラルアーツにおけるイノベーションの触媒となり」、「リーダーを育成する」という高い志を持ってスタートしました。

2021 年、閉鎖後も Yale 大学の管理者たちは、Yale-NUS がその野心に忠実であると確信していた。Yale 大学のグローバル戦略担当副学長で Yale-NUS の初代学長である Pericles Lewis 氏にインタビューしたところ、Yale-NUS は優秀な学生や教員を集めるという点で「期待以上」であると述べている。今回の閉鎖に関する声明で、Yale 大学の Peter Salovey 学長は、Yale-NUS が「シンガポールでのユニークで素晴らしい生活と学習の経験」であると主張しました。Salovey 氏も Lewis 氏も、Yale-NUS が継続さ

れることを望んでいると表明した。今回の決定は、Yale 大学ではなく、シンガポール国立大学によるものだったのです。実際、Salovey 氏は声明の中で、シンガポール国立大学 (NUS) の Tan Eng Chye 学長が Yale-NUS College の閉鎖について、「NUS の意向を伝えた」と述べていますが、これは NUS 懸念に対処する機会を与えるのではなく、Yale-NUS を閉鎖する意思を告げたと言えるでしょう。この閉鎖によって、Yale 大学とシンガポール国立大学 (NUS) の Yale-NUS College に対する考え方が大きく異なっていることが明らかになった。しかし、両大学は同じ事実と直面していたのです。Yale-NUS が資本調達目標に遅れをとっていることを知っていました。両大学は、Yale-NUS が学問の自由について、シンガポール国立大学 (NUS) が許容する範囲を超える方針をとることに同意していた。両大学は Yale-NUS のカリキュラム作成に一役買っている。もし Yale 大学と NUS が事実関係で一致しているならば、彼らの意見の相違はもっと深いところにあるはずだ。つまり、Yale-NUS College を設立したときに彼らが考えていた目標や価値観は異なっており、それが今では調和していないのだ。

2020 年、Yale-NUS に入学した学生 1 人に対し、他の学生 22 人が不合格となった。今年、Yale-NUS のシンガポール人学生は、それぞれ 20,500 ドルの授業料を請求される。これに対し、シンガポール国立大学 (NUS) の人文科学部の学生は、わずか 8,200 ドルしか払わない。シンガポール国立大学の学生の多くが、Yale 大学について、リベラルアーツ教育を一部のみにしか提供しないエリート主義的な大学だと考えているのも無理からぬことです。Chan Chun Sing 教育相はシンガポール議会での演説で、Yale-NUS と USP (NUS 内の University Scholars Programme) を合併して「New College (新大学)」にすれば、「この経験を NUS 全体の多くの学生に、一部または全部を提供できるようになる」と主張しました。NUS が Yale 大学よりも社会経済的なアクセスへの配慮を重視するのは理にかなっています。シンガポール国立大学 (NUS) は公立大学

であり、教育省はシンガポールの政府機関である。シンガポール政府にとって、教育の価値は、社会的流動性や経済成長を促進する可能性といった現実的な考慮事項と密接に結びついているでしょう。Yale 大学は私立大学であり、教育がもたらす物質的な利益にはあまり重点を置いていないのかもしれない。Yale 大学からすれば、Yale-NUS College の合格率の低さは名声と魅力の証であり、その高い運営費は世界レベルのリベラルアーツ教育の代償として許容できるものであったのかもしれない。Yale-NUS の寄付金調達の難しさは、地震を引き起こす衝撃だったかもしれないが、Yale-NUS の優先順位との断層は当初から存在していたのである。

しかし、Yale-NUS の学費の壁は、一見するとそれほど高くはないのかもしれない。2022 年度入学の Ben Goh は、シンガポール人学生に対する Yale-NUS の「極めて寛大な」学費支援に惹かれて出願したという。1 年目は 97% の補助金を受け、合計 600 ドルの学費を支払った。Ben の経験は特別なものではなかった。Yale-NUS は、シンガポール人学生が授業料を全額払えるかどうかを考慮せずに入学者を決定しているのだ。Yale-NUS は、学生が入学を許可された時点で、その学生の経済的ニーズを満たすことを保証する。低所得者である Ben は、入学審査に合格すると、NUS よりも Yale-NUS の方がさらに学費が安いことが判明しました。

この包容力は、Yale-NUS の学生文化やカリキュラムにも及んでいる。Ben は聴覚障害を患っており、時折耳鳴りがして聞き取りにくい。Yale-NUS の COVID-19 の規定では、授業中は教授が 5 メートル以上離れることが義務づけられています。他の大学であれば、これは Ben が教授の話聞き、学ぶ上で重大な障害となる可能性があります。しかし、Yale-NUS は、Ben にマイクを渡し、聞き取りにくいときはマイクを使ってもらおうようお願いすることで対応しました。レジデンシャル・アドバイザーとして、ベンは学習障害のある学生についてのインクルージョンを考えるセッションを運営しました。注意

障害、視力障害、聴覚障害のある1年生は全員、適切な宿泊施設に案内された。Yale-NUS の文化について尋ねると、Suman P はまず、Yale-NUS は「マイノリティやクィア (LGBTQ) の学生、留学生にとっても、シンガポールでは安全な空間だった」と答えた。正式な方針と規範の両方を通して、Yale-NUS は、あらゆる周辺に追いやられた、あるいは不利な立場にあるグループの学生が成功するために必要なサポートを純粋に提供しようと試みているのです。

Yale-NUS が本当にアクセスしやすいかどうかを判断するには、2 つの異なる基準があるように思います。1 つ目は公平性、2 つ目は利用可能な座席数です。公平性とは、Yale-NUS が、アイデンティティやバックグラウンド、障害の有無にかかわらず、リベラルアーツで成功するために必要なリソースをすべての学生に与えようとしているかどうかということです。シンガポールの低所得の学生も、ニーズ・ブラインド方式で出願しているので差別されることはありません。学習障害のある学生が入学した後は、彼らが効果的に学べるような便宜が図られています。

しかし、公平性を確保することと、多くの人が教育を受けられるようにすることは同じではありません。確かに、Yale-NUS は裕福な志願者と貧しい志願者の間の競争の場を均等にしようとしています。しかし、結局のところ、合格するのはごく一部の幸運な志願者だけなのです。このように、Yale-NUS は多元的でありながら排他的、文化的に多様でありながらエリートでもあるのです。このように、機会均等を目指す一方で、実際に合格する学生の数を厳しく制限するという矛盾は、リベラルアーツの特徴であり、バグでもないのです。

リベラルアーツ教育、特に Yale 大学のリベラルアーツは、資源のトレードオフを伴います。Lewis 氏にリベラルアーツについて質問したところ、「少人数制」と「セミナーや対話型ディスカッションなどのアクティブラーニング」の重

要性を強調されました。少人数制にすると、大学は学生一人当たりの教授、講師、ティーチング・フェローの雇用に多くの費用をかけなければならない。学生が自分の興味のある分野を超えて探求することを奨励することは、他の教育システムの学生と同じレベルの専門性を身につけるのに時間がかかり、その結果、学位取得のためにより多くの資源を費やさなければならないことを意味する。カリキュラムの幅が広がれば広いほど、またニッチであればあるほど、学費は高くなる。

Yale-Nus でも、このようなダイナミックが働いていた。NUS の Tan Eng Chye 学長によれば、「Yale-NUS は学生 8 人に教員 1 人という割合で運営されているのですが、USP (NUS 内の University Scholars Programme) では 12 人対 1 人以上、NUS の他のキャンパスでは 17 人に 1 人です。」在籍する学生一人当たり、Yale-NUS は USP や NUS のいずれよりも高額であったと思われます。Yale-NUS の学生の多くは、この緊張感をひしひしと感じている。Ben 自身も、「リソースの制約」から、NUS は Yale-NUS に比べて学生一人当たりの教授数が少なく、ディスカッション中心の授業よりも講義に重きを置いていると述べています。こうした高いコストを考えれば、Yale-NUS が年間 250 人しか入学できないのも無理はない。

Yale-NUS の閉鎖は、NUS とイェール大学のアクセシビリティに対するビジョンの衝突として読むことができますが、NUS の Yale-NUS 閉鎖の理由と New College が Yale-NUS の想定される欠陥をいかに解決するかについての説明は不鮮明で、時に矛盾していることさえあります。Yale-NUS の学生たちは、NUS がリベラルアーツへのアクセスを拡大することに真摯に取り組んでいるかどうか、懐疑的だ。例えば、NEW College の入学定員は年間 500 人で、Yale-NUS と USP の入学定員 490 人を 10 人上回ったに過ぎない。Ben は、「何が拡大するのかよくわからない」と苦笑いしながら話してくれた。これは、Yale-NUS と USP を合併させれば、学際的な教育

が受けられるようになるという NUS の主張を裏切っている。さらに、NUS は Yale-NUS の資金調達難が閉鎖の主な原因であるかどうかを判断できないようだ。9 月 11 日の合併に関する声明で、NUS の Tan Eng Chye 学長は Yale-NUS の運営コストの高さに焦点を当て、「2018 年に学長に就任して以来、Yale-NUS の財政は私の心に重くのしかかっている」と述べている。そのわずか 2 日後、シンガポールの Chan Chung Sing 教育大臣は、国会での演説で、NUS が Yale-NUS を閉鎖した主な理由はそのコストではなく、NUS を「学際的な学習」に軸足を置くためだと、全く逆のことを述べています。Chan 教育相によれば、New College は「寮制、少人数制、共通カリキュラム、イマーシブ体験」を維持するというのが、これはまさに Chye 学長が Yale-Nus の高コストの原因だと言ったものである。Chan 教育相は、New College は「規模の経済」の恩恵を受けると述べた。しかし、学生数を 490 人から 500 人に増やすことが、大きなスケールメリットをもたらすとは考えにくい。

NUS の矛盾したメッセージは、不快な真実を暗示している。NUS は Yale-NUS を閉鎖する下心を持っているかもしれないが、彼らはそれを公には認めないだけなのだ。Yale-Nus の初代学部長 Charles Bailyn は、NUS が Yale-NUS を閉鎖して、留学生を減らし、シンガポール人学生を増やすことを望んでいたと示唆した。Yale 大学と Yale-NUS の教員は過去に、Yale-NUS の言論の自由への支持について、特にシンガポール政府の言論統制の歴史を踏まえ、懸念を表明しています。シンガポール国立大学 (NUS) は、Yale-NUS 閉鎖の原因が留学生差別や学内言論検閲にあると主張することをためらうだろうと想像されます。様々な可能性のうち、どれが本当の理由なのかを検証することはできないが、ネイティビズムや権威主義を否定できないのは残念である。

NUS の管理者が Yale-NUS の学生を驚かせ、彼らの大学が閉鎖されるという知らせを受けた数分後、学生たちの苦悩に満ちた叫び声がレジデ

ンシャル・カレッジから聞こえてきた。現在在籍している Yale-NUS の学生は全員卒業し、学位を取得する。現在から 2025 年までの移行期間中に、Yale-NUS のリソースが削減されることはないだろう。では、この苦悩はどこから来るのだろうか。Yale-NUS での最後の 3 年間、Ben は寮制大学の 1 年生にアドバイスをし、Yale-NUS のために競争的なディベートをし、歴史学会で初めてのハロウィーン・パーティーを開きました。多くの仲間と同様、Ben も Yale-NUS のコミュニティを向上させ、豊かにしました。今、ベンは、「コミュニティが失われたことを悲しんでいる」と言う。Yale-NUS の学生たちも、NUS がコミュニティを不透明で無礼な方法で扱ってきたと見て、傷ついているのです。Yale-NUS の学生の中には、NUS から知られる前に、Yale Daily News で学校閉鎖のことを知った者もいる。NUS は、なぜ Yale-NUS を閉鎖することにしたのか、まだ十分な説明をしていません。このことは、地域住民の口に酸っぱい味を残している。彼らの大学はただ閉鎖されたのではなく、NUS は理由も告げずに足元から引き離し、学生たちを混乱に陥れているのです。

Yale-NUS College の閉鎖は、答えよりもはるかに多くの疑問を投げかけている。NUS が Yale-NUS を閉鎖した本当の動機は分からないかもしれないし、Yale-NUS の後継である New College を判断するにはまだ時期尚早である。Yale-NUS の閉鎖は、リベラルアーツのカリキュラムと、学校が大多数の受験生に提供できるカリキュラムという、二つの良いことのどちらかを選ばざるを得ないため、自己完結した良い話に集約することはできないのです。この難しいトレードオフがあるからこそ、NUS と Yale 大学はこの問題についてオープンに語り、なぜ一方の目標を選び、もう一方の目標を選ばなかったのかを説明し、あるいはこの 2 つをどのように調和させるつもりなのかを語る義務があるのです。NUS が Yale-NUS の閉鎖を、この会話をする機会として利用しなかったのは残念なことです。

www.DeepL.com/Translator (無料版) で翻訳し

ました。

・記事Ⅰ) オリジナル本文 (英語)

TITLE : The Yale-NUS Closure's Unanswered Questions

The Globalist / DECEMBER 14, 2021

On the Thursday afternoon of August 25, every student at Yale-NUS College got an email telling them about a surprise town hall taking place the next day. Friday classes were cancelled. Yale-NUS had already told students they'd be announcing some changes to their core curriculum, so when Suman P., a first-year at Yale-NUS, got the email, she said that she "didn't think much of it." Simultaneously, the National University of Singapore (NUS), announced its own town hall for students enrolled in the University Scholars Programme, a selective interdisciplinary program within NUS.

Did these town halls just happen to be scheduled at the same time? Rumors began to circulate that the joint town halls might announce some "interesting" new program involving USP and Yale-NUS. No one seemed to know what this new development would be. Yale-NUS was Yale's only major foreign partnership, and Yale had never contributed money from its own endowment to Yale-NUS. This is why, for years, Yale-NUS students wondered whether Yale would pull out, leaving its Singaporean offshoot on its own. These surprise town halls made those rumors hum just a little bit louder.

That Friday morning, just ten minutes before the town hall began, a fraction of Yale-NUS students opened their phones, laptops, or tablets and were greeted with press reports—NUS was shutting down Yale-NUS college and merging it with the University Scholars Programme to create a new college, unaffiliated with Yale. If these reports were to be believed, in four years, the Class of 2025 would be the last group of people on Earth to receive Yale-NUS diplomas.

The interval between the release of those news reports and the start of the town hall was, for Suman, "the most confusing ten minutes of my life." She didn't want to believe that Yale-NUS was shutting down, but sources as varied as the Yale Daily New, mainstream Singaporean papers like the Straits Times, and even a press release from Yale repeated the message in unison. The town hall confirmed that NUS had indeed decided to shut down Yale-NUS college, ending the college's ten-year-long project to bring liberal arts education to Asia. To understand why, we need to revisit 2011, when Yale University and the National University of Singapore announced plans to jointly establish Yale-NUS College.

In the announcement, Yale described Yale-NUS as "Singapore's first liberal arts college, and the first with a full residential college model, integrating living and learning." From the beginning, Yale-NUS occupied a

liminal space between being a fully independent institution and the subordinate offspring of its two parent universities. As an autonomous college, Yale-NUS designed its own core curriculum that "synthesize[d] Western and Asian perspectives," in the words of a 2011 Yale press release. At the same time, Yale-NUS lacks control over its own Board of Governors; Yale nominates half of the board members, NUS another half, and Singapore's Ministry of Education confirms every nominee. Still, Yale-NUS began with lofty ambitions to, in the words of the 2011 press release, "serve as a catalyst for innovation in liberal arts" and educate "leaders."

In 2021, even following the closure, Yale administrators were confident that Yale-NUS was living up to its ambitions. When I interviewed Pericles Lewis, Yale's Vice President for Global Strategy and Yale-NUS' first president, he said that Yale-NUS "exceeded expectations" in terms of attracting talented students and faculty. In his statement on the shutdown, Yale President Peter Salovey maintained that Yale-NUS was "a unique and remarkable living and learning experience in Singapore." Both Salovey and Lewis expressed that they wished Yale-NUS could continue. It was NUS, not Yale, that pulled the plug. Indeed, in the statement, Salovey says that NUS President Tan Eng Chye "informed [him] of NUS's intention" to shut down Yale-NUS, rather than raising the idea and giving Yale a chance to address NUS's concerns. The closure revealed that Yale and NUS's views on Yale-NUS were greatly divergent. And yet, both universities were faced with the same facts: both knew that Yale-NUS was falling behind in its capital fundraising goals. They agreed that Yale-NUS's policy of academic freedom would go beyond what NUS itself allowed. Both universities played a role in writing Yale-NUS's curriculum. If Yale and NUS agree on the facts, their disagreement must come from someplace deeper: they had different goals or values in mind when they founded Yale-NUS, which they now cannot reconcile.

In 2020, for every student admitted to Yale-NUS, twenty-two other students were rejected. This year, Singaporean students at Yale-NUS will each be billed \$20,500 in tuition fees. In comparison, students at NUS's College of Humanities and Sciences will pay only \$8,200. It's not surprising that many NUS students view Yale-NUS as an elitist institution that only offers its liberal arts education to a select few. In a speech to the Singaporean Parliament, Minister of Education Chan Chun Sing claimed that merging Yale-NUS and USP into the 'New College' would "allow us to scale this experience to many more students, in part or in full, across the NUS." It makes sense for NUS to give more weight to considerations of socioeconomic access than Yale does. NUS is a public university and the Ministry of Education is a Singaporean government agency. For the Singaporean government, the

value of education may be closely tied to pragmatic considerations like its potential to spur social mobility and economic growth. Yale is private, and may be less focused on the material benefits of education. From Yale's perspective, Yale-NUS's low admission rate may have been a sign of prestige and desirability and its high operating costs an acceptable price to pay for a world-class liberal arts education. Yale-NUS's difficulties in raising endowment funds may have been the shock that triggered an earthquake, but the fault-lines between Yale and NUS's priorities existed from the beginning.

However, the financial walls around Yale-NUS may not be as high as they seem at first glance. Ben Goh, a Yale-NUS student in the Class of 2022, said that Yale-NUS's "extremely generous" financial aid for Singaporean students drew him to apply. In his first year, he received a 97% subsidy and paid a grand total of \$600 in tuition fees. Ben's experience was not unusual: Yale-NUS doesn't consider whether Singaporean students can afford to pay the full tuition fee when deciding whom to admit. Once a student is admitted, Yale-NUS guarantees that they will meet that student's financial need. As a low-income student, once Ben had made it through the admissions office, Yale-NUS turned out to be even cheaper than NUS.

This inclusivity extends to Yale-NUS's student culture and curriculum. Ben has a hearing disorder, which occasionally causes ringing in his ears that makes it hard to hear. Yale-NUS's COVID-19 regulations mandate that professors stay at least five meters away from each other in classes. In another college, this could have been a serious barrier to Ben's ability to hear and learn from his professors. But Yale-NUS accommodated by giving him a mic that he asks people to use when he is having trouble hearing. As a Residential Advisor, Ben ran a session on inclusion for students with learning disabilities. First-years with attention disorders, eye-sight deficiencies, and hearing problems were all directed to the appropriate accommodations. When I asked her about Yale-NUS's culture, Suman P.'s first response was that Yale-NUS "was a safe space in Singapore for people from minority groups, [queer students], even international students." Both through its formal policies and norms, Yale-NUS genuinely attempts to give students from every marginalized or disadvantaged group the support they need to succeed.

It seems to me that there are two different metrics we could use to judge whether Yale-NUS is truly accessible: first, equity and second, the sheer number of available seats. By equity, I mean whether Yale-NUS tries to give all students the resources they need to succeed in the liberal arts, regardless of their identities, backgrounds, or disabilities. Low-income students from Singapore are not discriminated against because the application process is need-blind. Once a student with a learning disability gets in, accommodations are made to ensure they learn effectively

But providing equity isn't the same as making education accessible to many people. Sure, Yale-NUS tries to level the playing field between wealthier and poorer applicants. But, at the end of the day, only a small and lucky fraction

of applicants gets accepted. In this way, Yale-NUS is both pluralistic and exclusive, both culturally diverse and elite. This disjunction between aspiring for equal opportunity and strictly limiting the number of students who are actually accepted is a feature, not a bug, of the liberal arts.

A liberal arts education, and specifically Yale's flavor of the liberal arts, comes with a resource tradeoff. When I asked Professor Lewis about the liberal arts, he emphasized the importance of "small classes" and "active learning in the sense of seminars and interactive discussion." When class sizes are smaller, the University has to spend more money on hiring professors, lecturers, and teaching fellows per student. Encouraging students to explore beyond their fields of interest means that students take longer to gain the same level of specialization as their peers in other educational systems, and thus they must spend more resources to obtain their degree. The broader a curriculum and the more niche its offerings, the more expensive it gets.

This dynamic was at play at Yale-NUS. According to NUS President Tan Eng Chye, "Yale-NUS operates with a ratio of 8 students to 1 faculty member – compared to more than 12 to 1 in the USP, and 17 to 1 in the rest of NUS." It is likely that, per student enrolled, Yale-NUS was more expensive than either the University Scholars Programme or NUS. Many Yale-NUS students are keenly aware of this tension. Ben himself noted that because of "resource constraints," NUS has fewer professors per student and a greater focus on lecture over discussion-based classes than Yale-NUS does. Given these high costs, it's not surprising that Yale-NUS only admits 250 students a year.

While we can read Yale-NUS's closure as a clash between NUS and Yale's visions of accessibility, NUS's explanation of why it closed Yale-NUS and how the New College will solve Yale-NUS's supposed deficiencies has been amorphous and even contradictory at times. Yale-NUS students are skeptical of whether NUS is sincere about expanding access to the liberal arts. For instance, the New College is set to admit 500 students a year, only ten more than Yale-NUS and USP's enrollment of 490. Ben chuckled as he told me "I'm not really sure what expansion there is." This belies NUS's argument that merging Yale-NUS with USP would increase access to interdisciplinary education. Moreover, NUS seems unable to decide whether Yale-NUS's fundraising woes were a primary cause for the shutdown. In a September 11 statement about the merger, NUS President Tan Eng Chye focused on the high cost of running Yale-NUS, noting that "Since I became President in 2018, Yale-NUS' finances have weighed heavily on my mind." In a speech to Parliament just two days later, Singapore's Minister of Education Chan Chung Sing said exactly the opposite: that the main reason NUS closed Yale-NUS was not its cost, but rather to pivot NUS toward "interdisciplinary learning." Indeed, according to Minister Chan, the New College will retain "a residential component, small-group teaching, a common curriculum, and an immersive experience," the very things that President Chye said caused high costs at Yale-NUS. Minister Chan said that the New College would benefit from "economies of scale." But it is hard to believe that increasing the student

population from 490 to 500 will bring significant economies of scale.

NUS's contradictory messaging hints at an uncomfortable truth: NUS might have an ulterior motive for shutting Yale-NUS down—they just won't admit it publicly. Charles Bailyn, Yale-NUS's first Dean of Faculty has suggested that NUS wanted to close Yale-NUS so that it could admit fewer international students and more Singaporean students. Yale and Yale-NUS faculty members in the past have raised concerns about Yale-NUS's support for free speech, particularly given the Singaporean government's history of controlling speech. One can imagine that NUS would hesitate to claim that the cause for their closure of Yale-NUS was to discriminate against foreign students or to censor campus speech. It is impossible to verify which of the various possibilities was the real reason why NUS pulled the plug, but it is disheartening that we can't discount nativism or authoritarianism as possible causes.

Minutes after NUS administrators surprised Yale-NUS students with the news that their college would be shutting down, anguished screams of students could be heard emanating from residential colleges. Currently enrolled Yale-NUS students will all graduate and receive their degrees. There are not likely to be cuts to Yale-NUS's resources in the transition period between now and 2025. So where does this anguish come from? In his last three years at Yale-NUS, Ben advised first-years at his

residential college, debated competitively for Yale-NUS, and threw the History Society's first ever Halloween party. Like many of his peers, Ben improved and enriched the Yale-NUS community. Now, Ben says that "We're grieving the loss of the community." Yale-NUS students are also hurt by what they see as the opaque and disrespectful way that NUS has treated the community. Some Yale-NUS students learned about the closure of their school through the Yale Daily News, before NUS told them. NUS still hasn't fully explained why they chose to close Yale-NUS. This has left a sour taste in the community's mouth. Their college isn't just closing—NUS yanked it from under their feet without telling them why, leaving students dizzy with confusion.

The Yale-NUS closure raises far more questions than it answers. We may never know what NUS's real motivation for shutting Yale-NUS down was, and it's still too early to judge Yale-NUS's successor, the New College. The Yale-NUS closure cannot be distilled into a nice, self-contained story because it forces us to choose between two good things: an expansive liberal arts curriculum and a curriculum that schools can provide to the majority of prospective students. It is precisely because of this difficult tradeoff that NUS and Yale have an obligation to speak about it openly, to explain why they chose one goal and not the other, or to tell us how they plan to reconcile the two. It's unfortunate that NUS didn't use the Yale-NUS closure as an opportunity to have this conversation.

2) シンガポール国立大学の新しい「NUS College」が間もなく始動。初年度の入学者とは？

Yale-NUS の最後の卒業生は 2025 年度を予定していますが、シンガポール国立大学では既に新体制となる NUS College を大学内に設立し、今年から新入生を受け入れるようです。その入学志願者、入学者、そして学費支援はどのような成果を시켰のでしょうか。閉鎖の理由と照らし合わせている記事をご紹介します。

<https://theoctant.org/edition/issue/allposts/news/nus-college-class-of-2026-admissions-data-a-new-college/>

・記事 2) deepL 日本語翻訳

タイトル: NUS カレッジ Class of 2026 のアドミッション・データ: 新体制の大学

The Octant / 2022 年 8 月 6 日

NUS カレッジ (NUSC) 第 1 期生の統計が、日曜日 (7 月 17 日) の The Straits Times の報道で発表された。

このデータは、2 週間前に The Octant が発表し

たにもかかわらず、全国紙で最初に発表されたもので、リベラルアーツカレッジの最終入学者である Yale-NUS Class of 2025 よりもある面では多様で、ある面では少ないことが明らかにされた。

NUS の Tan Eng Chye 学長は、2021 年 9 月の社説で、当時 New College として知られていた新しいプログラムを擁護し、よりアクセスしやすくすることが、NUS カレッジ設立の中心理念であると述べている。

7,000 人の志願者、400 人の学生

NUS カレッジは、約 7,000 人の応募者の 6%にあたる 400 人の学生を最初のクラス（学年）で迎える予定です。NUSC は、一般的に合格率を算出するための合格者総数を公表していない。

NUS カレッジの出願者数は、前回の Yale-NUS の時の入学願書サイクルでは 14,367 名の出願があり、約 2%にあたる 240 名が入学したのに対し、今回はその半分以下に減少しています。

NUS カレッジの副学部長（アウトリーチ）である Quek Su Ying 氏は、The Octant からの問い合わせに対し、「NUS カレッジへの関心の高さに興奮しており、最初の入学者の質の高さに感銘を受けています」とコメントしています。

「この先も、優秀な学生たちの関心を集められると期待しています。」

NUS カレッジの学生が予定している専攻は、医学と歯学を除くほとんどの学部で、次のような分布になっています。これは、「複数の進路や専門科目に柔軟に対応できる」という NUS カレッジの目標に沿ったものだとして Tan 教授は言います。

また、NUS カレッジの学生は、大学入学後の 2 年間で専攻を変更することも可能です。

経済的支援

NUS カレッジは、「（1 年生の）世帯収入を調査した結果、約 4 人に 1 人が高等教育奨学金の受給資格を得る可能性のある『困窮』学生に分類されることがわかった」と述べた。

これは、2 月の The Straits Times の記事で引用された NUS 全体の学生の割合（全学部生の

55%）よりもかなり低いものである。

また、Yale-NUS の 2025 年度卒業生は、39%がメリットや必要性に基づく援助を受けたことから、大幅に減少していることが分かる。留学生を対象としたニーズ・ブラインド入試を実施した最後の Yale-NUS 卒業生である 2024 年度卒業生では、この数字はさらに上がり、57%に達している。

また、学資援助は複雑であるため、単純な比較はできない。シンガポール国籍の学生は年間 30,041 ドル、学費補助を受けていない留学生は 74,653 ドルで、表面上はイェール NUS の方がかなり高額です。

NUS カレッジの学生は、シンガポール国籍で 8,250 ドル、学費補助のない留学生で 34,250 ドル、そして Cinnamon College に滞在するために約 7,000 ドルの寮費を払うことになる。

しかし、Yale-NUS は経済的支援に対してニーズベースのアプローチを採用し、国籍に関係なく個人の状況を判断した上で、各学生が支払えると思われる額を個別に支給していた。

具体的な金額は公表していませんが、提示された金額よりもかなり低い金額を支払うのみの合もあります。

NUS カレッジの言う「高等教育奨学金」が何を指すのかは不明である。また、4 人に 1 人の割合が、少なくとも 1 つの財政制度の適用を受ける「可能性がある」学生全員を含むのか、NUS カレッジの判断で十分な財政支援を受けた学生のみを考慮するのかも不明である。

Quek 教授の学資援助に関する問い合わせに対し、「NUSC の学費を引き続き手頃なものにする一方で、学生は現在 NUS の全学生が利用している幅広い学資援助オプションを利用することができます」と答えている。

NUS Office for Financial Aid は、そのウェブ

サイトによると、様々な条件を持つ多くの制度の適用資格の主な決定要因として、一人当たりの所得（PCI）を使用しています。

このような厳格な基準は、例えば、複数の大学生の子どもを同時に養っている家庭や、高額な医療費が必要な家庭など、個々の状況を適切に反映していない可能性があります。

また、留学生は、シンガポール人の 2700 ドルに対して、1200 ドル以下という厳しい PCI 要件に加え、いくつかの種類の奨学金からは明確に除外されるなど、援助の種類も制限されている。

同じ 2 月の記事で、NUS は PCI が 1,000 ドル以下のシンガポール人学生の授業料を全額負担し、PCI が 690 ドル以下の学生には生活費として 4 年間で最大 26,000 ドルを支給すると発表している。また、レジデンシャル・カレッジでは、寮費を相殺するために奨学金を支給する場合もある。

出身学校と文化

NUS カレッジは、20 名のポリテクニク（工科大学、高等専門学校など）卒業生（前回の Yale-NUS カレッジの卒業生より若干多い）と 5 名のマドラサ（イスラム教の学校）卒業生を最初の学生として迎える予定です。Yale-NUS は過去にマドラサからの入学を明記していなかった。

・記事 2）オリジナル本文（英語）

TITLE: NUS College Class of 2026 Admissions
Data: A New College
The Octant / August 6, 2022

The demographics of the first NUS College (NUSC) cohort debuted in a report by The Straits Times on Sunday (17 July).

The data—released first in the national newspaper despite The Octant queries two weeks prior—reveal an inaugural cohort more diverse in some aspects and less in others than the Yale-NUS Class of 2025, the liberal arts college’s final intake.

留学生は 21 の国籍を代表し、2025 年度卒業者の 35 国から減少し、400 人中 100 人が留学生である。

シンガポールの地元校やインターナショナルスクールに通う外国人学生の文化的背景を市民権が正確に反映しているとは限らないため、The Octant は文化的多様性の指標としてシンガポールの学校からの入学者数も用いている。NUS カレッジは、この件に関する The Octant の問い合わせに回答していません。

NUS カレッジは、性自認や法的な性別に関するデータの提供も拒否しています。これに対し、法的性別は、NUS レジストラ・オフィスが NUS の学生全体について公開している数少ない人口統計学的データの 1 つである。

以前、Yale-NUS のアドミSSION オフィスは、学生の法的性別に関するデータを公開しましたが、性自認については、新入生にそのような質問に答える必要がないため、公開を断念しています。

「NUSC チームと上級生は、8 月に入学する第一期生を歓迎することに集中しています」と Quek 教授はコメントしています。

Greater accessibility is a central tenet behind NUS College’s founding, according to NUS President Tan Eng Chye in a September 2021 editorial defending the new programme, then known as New College.

7,000 Applicants, 400 Students

NUS College will welcome 400 students in its first class, or 6% of its approximately 7,000 applications. NUSC did not publicize the total number of offers, with which acceptance rates are typically calculated.

The size of the NUS College application pool decreased by more than half from the last Yale-NUS admissions cycle, where 14,367 applications were submitted and 240, or about 2%, attended.

“We are excited about the interest for NUS College and are impressed with the quality of applicants for our first intake,” commented Vice Dean (Outreach) Quek Su Ying of NUS College, responding to queries from The Octant.

“ We expect to attract more interest from outstanding students in the years to come.”

At admission, the distribution of intended majors among NUS College students is as follows, representing most NUS faculties except Medicine and Dentistry. This aligns with NUS College’s ambitions to offer “flexible access to multiple pathways and specialisations,” according to Prof. Tan.

NUS College students also have the option to change their majors in the first two years of college.

Financial Aid

NUS College said that “a college survey of [first-years’] household incomes found that about one in four can be classified as ‘needy’ students who are likely to qualify for higher education bursaries.”

This is considerably lower than the proportion of students NUS-wide, which a February The Straits Times article quoted as 55% of all undergraduates.

This also reflects a significant decrease from the Yale-NUS Class of 2025, 39% of whom received merit or need-based aid. In the Class of 2024, the last Yale-NUS cohort with need-blind admissions for international students, that number rises further to 57%.

The complexities of financial aid also hinder straightforward comparison. On the surface, Yale-NUS is considerably more expensive, with fees ranging from \$30,041 per year for Singapore citizens to \$74,653 for international students not on the tuition grant.

An NUS College student will pay \$8,250 as a Singapore citizen or \$34,250 as an international student without the tuition grant, and a residential fee of approximately \$7,000 to stay in Cinnamon College.

However, Yale-NUS adopted a need-based approach towards financial aid, offering individualized awards based on what it believed each student could pay after an assessment of personal circumstances regardless of citizenship.

While the College does not publicize specific aid quanta, students can sometimes pay significantly less than the asking price.

What NUS College refers to by “higher education bursaries” is unclear. It is also unknown if the one-in-four proportion includes all students who “are likely to” qualify for at least one financial scheme, or considers only those who receive sufficient financial aid in NUS College’s judgment.

“We will continue to keep the fees at NUSC affordable, while our students will also have access to the extensive financial aid options that are currently available for all NUS students,” says Prof. Quek in response to financial aid queries.

The NUS Office for Financial Aid uses Per Capita Income (PCI) as the main determinant of eligibility for many of its numerous schemes, each with varying requirements, according to its website.

Such rigid criteria may not adequately reflect individual circumstances, such as if a family supports multiple university-age children simultaneously or if family members require high medical expenditures.

International students are also restricted in the types of aid they receive, being explicitly excluded from some types of bursaries in addition to stricter PCI requirements of less than \$1,200, as opposed to \$2,700 for Singaporeans.

The same February article announced that NUS will cover all tuition fees for Singaporean students with a PCI lower than \$1,000, while those with PCIs lower than \$690 will receive up to \$26,000 over four years for living expenses. Residential Colleges may also

Schools and Cultures of Origin

NUS College will welcome 20 Polytechnic graduates—a slightly higher proportion than the last Yale-NUS cohort—and five Madrasah graduates among its first students. Yale-NUS did not specify in the past if any students were admitted from Madrasahs.

International students hold 21 different citizenships, a fall from the 35 represented in the Class of 2025,

and comprise 100 of the 400 students.

The Octant has also used the number of students from Singapore-based schools as a gauge of cultural diversity, as citizenship may not accurately reflect the cultural backgrounds of foreign students attending local or international schools in Singapore. NUS College did not address The Octant queries on the topic.

NUS College also declined to provide data on gender identity or legal sex. In comparison, legal sex is one of the few demographic data the NUS Registrar's Office makes available for the whole NUS student body.

Previously, the Yale-NUS admissions office released data on student legal sex, while declining to do so for gender identity as it did not require new students to answer such a question.

“The NUSC team and senior students are now focused on welcoming our inaugural cohort when they join us in August,” Prof. Quek commented. award bursaries to offset residential fees.

◆もっと知りたい場合◆

おススメ検索キーワード

Trans national education

Yale-NUS College

Behind the decision × Yale-NUS College

NUS College

A new college at NUS